

# 12 Projects

【エコ活動ファイル 2008】

## マークの凡例



地域支援



環境教育



シルクロード緑化

中国

**沙漠化が進むシルクロードで、  
地元農民の人たちや学生たちと  
植林活動を行っています。**

中国シルクロード上の黄土高原では、急速に沙漠化が進んでいます。これは地元の人たちが木を燃料としていること、伐採した木材を販売し現金収入を得ていること、さらに耕地確保のために伐採を続けてきたことが主な原因と言われています。そこで、乾燥と寒暖の差に強く、沙漠化を防止する効果ならびに経済的な価値が高い沙棘(サジー)の植林を行い、沙漠化を防止するとともに、地元の人たちの生活の安定をめざしています。

### 》2008年度活動実績

中国甘肅省通渭県<sup>トウエイ</sup>の山岳植林地35ヘクタールの土地に、105,000本の木を植林しました。また、中国の地元指導者と会合する場を設け、植林方法や管理方法について指導しました。

### 》2009年度活動予定

昨年度に続き、中国甘肅省通渭県において120,000本のサジーの苗木を植林する予定です。さらに地元の人たちに植林後の管理を委託し、地元の人たちの自立と貧困の解消を図ります。また植林後の苗木が根付いて成長する割合が高くなるよう、管理状態をモニタリングします。



植林をする子どもたち



参加した地域の子どもたちと



成長した  
サジーの実



種まき塾

日本

**「ココロと大地にタネを蒔く」を  
スローガンに、森林づくりと環境教育に  
取り組んでいます。**

物ごとの始まりであり「循環」の象徴と言える「タネ」に注目し、自然林づくりと環境教育に取り組んでいます。山からタネや実生(タネから発芽したばかりの幼い木)を採取し、これを苗畑で育て、地元で植林する人たちに提供します。さらに苗木の育成や植林活動を通じて、環境教育プログラムを実施しています。

### 》2008年度活動実績

苗木の供給として、アカエゾマツやミズナラなど、その土地に合った苗木を「北海道山村草木会」や「富良野市民植林」など地元で植林する人たちに合計7,168本供給しました。環境教育では、育苗体験に延べ579人が参加しました。

### 》2009年度活動予定

北海道富良野市における自然林づくりをめざし、その土地に合った苗木づくりを実践していきます。2009年度はエコカード会員向けのエコツアーを実施する予定で、山からタネや実生を採取し、育苗、植林の環境体験学習を実施します。



実生を採取する参加者たち



実生を苗畑で  
育てる



育った苗木を  
植える作業



エコキャビンスクール  
2008年10月開始

日本

**全国の子どもを対象に、エコロジカルな暮らしを体験する  
スクールを展開しています。**

エコキャビン(自然エネルギーで生活できる家)スクールでは、子どもに自然エネルギーを活かした暮らしを体験してもらい、地球温暖化防止に向けた行動を実践する意識を高め、持続可能な社会づくりをめざしています。



太陽光パネルを設置する子どもたち

### 》2008年度活動実績

自然エネルギーについて学ぶために、太陽光発電機とエネルギーモニターを「エコキャビン」に設置しました。また、実際にエコキャビンを使い、「子どもエコキャビンスクール」を実施し、小中学生16名が参加しました。

### 》2009年度活動予定

小中学生を対象とした自然エネルギー体験プログラム「エコキャビンスクール」を実施し、太陽光パネルを利用したLEDの照明器具を取り付け、自然エネルギーについて学ぶ予定です。



エネルギーモニターを  
接続する様子



野口健環境学校

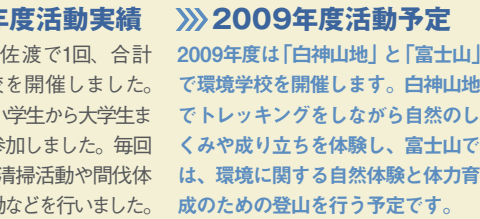
日本

**環境に対し自ら行動できる  
“環境メッセンジャー”の育成を  
支援しています。**

「自分から環境に対して行動しメッセージを発信できる人“環境メッセンジャー”を育てていきたい」。そんな思いから野口健さん率いるNPOとともに「環境学校」を開催しています。環境学校では自然の美しさや楽しさを体験し、環境保全の在り方や、背景にある社会問題も学びます。



富士山でのゴミ拾い



野口健さんを隊長に富士山での環境学校を実施

### 》2008年度活動実績

富士山で3回、佐渡で1回、合計4回の環境学校を開催しました。2008年度は、小学生から大学生まで延べ64人が参加しました。毎回テーマを変え、清掃活動や間伐体験、里山保全活動などを行いました。

### 》2009年度活動予定

2009年度は「白神山地」と「富士山」で環境学校を開催します。白神山地でトレッキングをしながら自然のしくみや成り立ちを体験し、富士山では、環境に関する自然体験と体力育成のための登山を行う予定です。



学校の環境教育支援

日本

**日本各地のNPOとともに、  
教育の現場、  
「学校」での環境教育を支援しています。**

教育最前線である「学校」の環境教育をお手伝いすることが、このプロジェクトの目的です。自然体験プログラムなどのノウハウを持つ日本各地のNPOと、ノウハウや機会を探している学校とのマッチングを行い、互いの長所を活かした環境教育プログラムに取り組んでいます。また、環境教育サイト「EE kids」を活用し、環境教育のプラットフォームづくりも行っています。



川にいる魚を観察

### 》2008年度活動実績

学校による自主的な環境教育の展開をめざし、日本各地13校に環境教育プログラムを支援しました。

地 区	学 校	内 容
北海道	札幌小	冬の運動会や遠足を通して、雪や氷についての体験学習を実施
岩手県	平山小	待機電力や地球温暖化、太陽光発電について体験学習
宮城県	鹿折中	牡蠣養殖見学や、養殖家による環境に関する講義を実施
	筆甫小	地元での森の学習や炭焼き体験学習
	鶯沢小	3年生：水の浸食による河川の形成、水力発電について 4年生：温室効果の模擬実験や自然エネルギー体験学習を実施 5年生：地域の自然環境観察や炭鉱技術、リサイクル工場見学 6年生：大土ヶ森登山と大土ヶ森を紹介する紙芝居の作成
	大袋東小	校舎内の動植物観察。また教員の環境教育研修を実施
東京都	中島根小	ビオトープの見学、設計図制作およびビオトープ造成
	富久小	ヒートアイランドやグリーンカーテンについて体験学習
	東戸山小	地域周辺の動植物の観察やゲームの実施
三重県	東黒部小	海岸清掃やキャンプ場で森林保全学習
	第五小	宮川上流域の生物学習、生態系に対する知識を取得
鹿児島県	漆小	地元の野鳥観察を通して食物連鎖や生態系を学ぶ
沖縄県	富野小中	サンゴ礁を観察、白化現象調査。報告書作成



薪を使った  
夕食作り

### 》2009年度活動予定

2009年度は、支援対象校を日本全国から公募し、岩手県2校、宮城県1校、東京都1校、三重県1校、奈良県2校、大阪府1校、岡山県1校、香川県1校、鹿児島県1校、沖縄県2校の全13校に環境教育プログラム支援を行う予定です。



**内モンゴル緑化**  
2008年10月開始

中国

**モンゴルの沙漠にサジーを植林し、環境教育と生活水準の向上に取り組んでいます。**

沙漠化が急速に進む中国のモンゴル自治区において、現地の八仙筒中学校に経済的価値の高いサジー植林地を設置し、沙漠化防止と環境教育、地元的生活水準向上をめざします。

苗木基地での植苗作業

**2008年度活動実績**

「内モンゴルの沙漠化と防止活動」というパンフレットを作成し、内モンゴルにおける沙漠化の原因や影響ならびにその防止活動について説明しました。また、苗木基地の役割や植林方法を説明する教材を作成し、地元の中学生に対して環境教育を行いました。

**2009年度活動予定**

これまでの環境教育経験を活用し、より一層充実した教材、資料を用いた環境教育を行います。さらに学校の普段の授業でも環境教育が行えるように現地教員との研修会実施を計画しています。

**北タイ山岳地帯 共有林地図作成**  
2008年10月開始

タイ

**北タイ山間部の人たちが、自然に支えられた生活を再び取り戻すための「共有林地図」を作成しています。**

北タイ山間部では、地元住民は森林の中で持続可能な豊かな暮らしを営んできました。しかし、大規模な森林伐採による環境破壊を食い止めるために、国がすべての森林を「国有林」に指定し、地元住民が森に住めなくなりました。北タイ山間部の人たちが、再び森での自然に支えられた生活を取り戻すためには、現在の「国有林」が「共有林」として国に認められることが必要です。そこで、「共有林」の申請に必要な地図作りを地元住民とともに行っていきます。

GPSを使って測位する地域の人たち

**2008年度活動実績**

2008年度は、活動対象地域における情報収集や、村のリーダーとの話し合いを進め、プロジェクトの対象となる8つの村を選択しました。またスタッフ研修やファーン川流域地図作成に関する講習会を実施しました。

**2009年度活動予定**

昨年度に続き、政府に対して申請可能な地図を作成するとともに、今まで培ってきた経験を活かして地図作成の技術を普及させ、事例となる村を10村程度まで増やす予定です。

共有林の範囲を設定するための立体模型作り

**タイ**  
Thailand

**フィリピン**  
Philippines

**熱帯雨林保全**

**熱帯雨林の保全をめざし、焼畑農業から定置型循環有機農業への移行を支援しています。**

パプアニューギニアとソロモン諸島は、熱帯雨林が茂る自然に恵まれた島国です。しかしながら、近年の人口増加や急速な近代化により、従来行われてきた焼畑農業は、森の再生スピードを超えて広がり、熱帯雨林の破壊原因の一つとなっています。当プロジェクトでは、定置型有機農業の技術指導と普及による熱帯雨林の保全と地元の人たちの生活安定をめざしています。

**パプアニューギニア**

**2008年度活動実績**

研修農場プロジェクトとして、農場に併設されている図書室の参考書籍の充実化、研修プログラムの立案を実施しました。定置型有機農業プロジェクトでは、手動もみすり機の作り方や、もみのふるい落とし方を指導しました。また刑務所に収容された人たちの社会復帰に向け、農業見学や体験学習を実施しました。

**ソロモン諸島**

**2008年度活動実績**

循環型有機農業の人材育成施設「パーマカルチャーセンター（PCC）」では、4期生35名を全国から受け入れ、12月時点で28名が卒業しました。「ソロモンオーガニックセンター（SOC）」では、キャッサバチップスや蜂蜜入バンケーキなど加工食品を試験的に製造販売しました。

**2009年度活動予定**

定置型有機農業の技術を普及させて、各村のリーダーを輩出していく予定です。また新たに野生動物の保護や観察用の野生動物園の整備、熱帯原生林の調査研究を始め、さらに「調査指導センター」を建設する予定です。

ソロモン諸島での循環型有機農業研修

**2009年度活動予定**

昨年度に続き「PCC」では、循環型有機農業研修を実践し、稲作、野菜、家畜、森林などを指導します。また「SOC」を拠点として、生産青果物の流通や商品開発を行っていきます。

パーマカルチャーセンターの卒業式の様子

**中国**  
China

**フィリピン**

札幌 9 富良野 4 岩手 9 12 宮城 9 佐渡 10 長野 11 埼玉 9 東京 9 11 富士山 10 神奈川 11 三重 9 鹿児島 9 沖縄 9

**循環型農業支援**

**フィリピン**

**循環型農業によるエリ蚕織物づくりで、森林保全と女性や子どもの自立を支援しています。**

フィリピン南西部のパラワン島は緑豊かな島ですが、同国の中で最も開発の遅れた地域といわれています。この地域では、生活の糧を得るために森林伐採や焼畑農業に従事する人たちが増えてきています。そこで、パラワン島の首都において、タグバライ財団の協力を得て、地元の女性によるキャッサバ栽培と、エリ蚕飼育による環境保全活動を展開しています。

糸つむぎ機でつむいだ糸

**2008年度活動実績**

2002年から継続的にエリ蚕飼育、糸紡ぎ、編み物、織物を指導しています。2008年度も3回現地を訪問し、編み物、織物が製品として輸出できるよう、仕上げ作業を重点的に指導し、その結果、返品される製品が減少しました。

**2009年度活動予定**

2009年度は、品質管理とマーケット開拓を中心に活動を展開します。また、生産性を向上させるために、比較的簡単に糸紡ぎが出来る機材で生産していきます。

スカーフなどの製品を生産している様子

**さとやま学校**

**日本**

**美しい景観を有する日本の棚田保全と、次世代への農業教育を行っています。**

日本国内では人口減少や高齢化に伴い、里山の環境が荒廃しつつあります。その影響を受ける長野県飯綱町で、棚田や里山の再生・保全と、次世代を担う子どもたちへの教育提供を実践しています。

講師を招いて農業を学ぶ授業を実施

**2008年度活動実績**

耕作放棄地を雑穀畑にするための講習会を実施し、地元の約20名の人たちが雑穀を栽培しました。また、東京都と神奈川県の小学校3校、合計約900名の生徒を対象に、飯綱町から講師を招き、「お米づくり」から農業を学ぶ授業を提供しました。またITを活かした学校教育として、昨年度まで作成してきたソフトを活用し、各学校に合わせたプログラムを作成しました。

**2009年度活動予定**

昨年度に続き、耕作放棄地や棚田などの農地の再生、保全を行います。また、次世代を担う人材育成として、3校約250名を対象に、食糧や農業についての教育プログラムを提供します。

稲の観察

**南太平洋諸国支援**

**キリバス共和国**

**地球温暖化の影響と言われている海面上昇で、危機的な状況にある南太平洋諸国へ支援しています。**

南太平洋のキリバス諸島やツバルは、気候変動の影響を真っ先に受けると言われている島国です。平均海拔が数mしかない両国は、海面が上昇すると住宅が浸水したり、井戸に海水が流入し、飲料水が不足したりするといった問題に直面しています。さらに作物が育たなくなり、自給自足の循環型社会から輸入品に頼るようになったため、そのゴミが島内に散乱し、新たにゴミ問題も発生しています。本プロジェクトでは、海面上昇による海岸浸食から島の人たちを守るためのマングローブ植林とゴミの分別処理に向けた啓蒙活動を支援しています。

**2008年度活動実績**

昨年度は約6,500本のマングローブの苗木を植林しました。また、キリバスの大統領から環境教育をして欲しいという依頼を受け、現地のルルバオ小学校児童63人と教員、環境・国土・農業開発省職員と協力して植林をしました。

**2009年度活動予定**

2009年度は約50人の住民とともに6,000本のマングローブを植林する予定です。またキリバス関係諸機関の担当者を指導し、マングローブの植林、保全・再生にかかわる技術移転をめざします。

キリバス共和国での環境教育風景

マングローブ林の様子

**ツバル**

**パプアニューギニア**  
Papua New Guinea

**2008年度活動実績**

2008年3月に植林したマングローブが無事成長していることを確認し、新たに2,949本のマングローブを植林しました。また以前に植林したマングローブの手入れも行いました。さらにゴミを分別すれば資源になることを知ってもらうための教育方法について、専門家を招き、現地調査を実施しました。

**2009年度活動予定**

2009年度は、2,000本を目標にフナファアラ地区にマングローブを植林する予定です。また、ゴミを分別すると資源になることを認識するためのワークショップを開催し、ゴミ処理の啓蒙活動を行っていきます。具体的には廃プラスチック油化装置を導入し、一部のプラスチックが油になるという実験をする予定です。

2回目を迎えたツバルのマングローブ植林

**キリバス共和国**  
Republic of Kiribati

**ツバル**  
Tuvalu

**ソロモン諸島**  
Solomon Islands